

令和6年度 学校教育評価書（長等小学校）

評価の基準（ 3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった

項 目		評 価 の 観 点	自己評価 (3・2・1・0)	学校関係者評 価(3・2・1・0)	教職員自由記述(評価の理由など)	学校関係者自由記述(評価の理由など)	次年度への提言	関連するSDGsの 目標(参考)
主体的・対話的で深い学 び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実 践	B	A	○これまで本校が大切にしていた「学級会」などの児童の自主的な活動を基盤にした支持的風土を育てる集団づくりは、継承していくべきである。○学習において、子ども同士の対話のポイントとなる画像や動画を用意し、ICTを使用しながら話し合いを進められるようにした。○学級会の基盤があるが、教員も疲れていくため、今後も継続していけるようにしたい。○社会科・生活科を中心に授業研究や研修会を行っている。授業の改善、工夫、研修について、十分に実施されている。○県の大会があったことで、何度も指導案を練りあい、深い学びを目指すことができた。●支持的風土を育てる集団作り日々取り組んでいるが、ソーシャルスキルがまだ低い児童がいる。引き続き取り組み、よりよい学級にしていきたい。●単元のゴールを意識し、子どもたちともに授業をつくっていくことを心掛けた。○学級会を通して、学級の児童がお互いのことを認め合い、自分の意見を伝えやすい環境作りを心がけた。授業では、常に児童が自分のめあてを考えて、学習に取り組んだ。ICTも適切なタイミングで活用することで、子どもたちの学習意欲の向上に繋がった。○児童が友だちと協力しながらできない学習を取り入れるなどして、自分なりに協働的な学びの実現がはかれた。○社会科をはじめ、子どもたちにとって魅力のある学習活動の研究を行うことができたと思う。○ペアやグループなどの小集団活動を積極的に取り入れ、一人ひとりが学習に参加しやすい環境づくりを心がけている。○社会科の県大会ということもあり、学年で協力しながら教材研究に取り組む、子どもの実態を基にして単元を構想することができた。○指導案検討会などを通して、新たな視点に気づくことができた。研究会があることで、全体として意識が高まり、学年団としてよりよい授業づくりについて考え、実践することができた。○OJT研修を通して、それぞれの持ち味を教えていただき、活用させていただく機会を得ることができた。○学校の主人公はいづも子どもであることを意識することで、子どもが生き生きと充実した生活を送るために必要な手立てを日々吟味している。	○第3回運営協議会の資料の「質問用紙調査」に表れている通り、長等小の児童は一言で言えば本当に良い子で勉強の大切さも理解し、前向きに取り組むことができると実感していると思う。学校・家庭の取り組みの成果だと思う。●他の方との意見の相違に対して更に発展して意見交換をしていく様な考え方・行動面で課題が残るようなので、さらに取り組みをお願いしたい。○2年生の授業で、児童同士でお互いの良いところを見つけて伝え合う学習があったと聞いた。また、自分の好きなこと、得意なことを「係」にして活動する取り組みが、お互いの個性を発見し認め合う環境づくりに役立っていると感じた。○自分たちの町の良いところを見つけた、様々な分析に基づく取り組みを拝見した。今後も信頼している。	昨年度と比較して、自己評価については、各項目0.2p上昇した。(学校関係者評価は±0p)県小社研湖西大会に向けて、すべての学年が同じ時期に教材研究や指導案検討に取り組むことが、校内研究に対する意識の向上がにつながったと感じている。「魅力ある問い」は、どの教科にも通じるものであると共に、教師と子ども、どちらにとっても必要な視点である。その手立てを、より明確なものにし、来年度の近小社研滋賀大会につなげていきたいと考えている。長等小学校は、特別活動を重点を置き、支持的風土を土台にした集団づくりにも取り組んできた。子どもたちが互いに認め合い、安心して学び合うことができる雰囲気醸成し、よりよい授業づくりにつなげた。	
	2	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善 (ICTの活用含む)	B					
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	A					
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	A	A	○昨年度の振り返りを生かして、今年度は保護者への道徳科の授業公開を実施することができた。●授業・評価に関する研究には課題が残る。○今年度より、道徳科の保護者の授業公開が再開された。次年度以降も継続していけるように。○11月の参観が道徳になったので、学年で話し合いながら教材作りができ、保護者にも見てもらえて良かった。○毎週行う道徳の学習では、様々な視点から捉え考え、最後は自分事として考えられるような授業展開を行うことができた。○それぞれの個性・持ち味を大切にしたい道徳学習を常に意識した。○公開授業では、子どもたちの考えを発表させることで、実生活をふりかえらせた。○道徳科の授業参観を実施することができた。また、人権週間をきっかけにみんなが幸せになるためにの言動について子どもたちと共に考え、実践することができた。○道徳の学習だけでなく、学んだことを生かせるようにしている。参観では、全クラスが道徳の授業の授業を行うことができた。また、普段と違い保護者にも参加してもらうことで子ども達自身にとっても新たな学びにつながると思う。○道徳の授業では、どちらかの考え方が正しいというわけではなく、子どもたち自身が素直な意見を発表できるような雰囲気づくりに努めた。●ジェンダーについて、学校全体で共通認識ができるように子どもたちにも学年段階にあった指導をしていったほうがよいと思う。○道徳教育は、全学習活動を通じて行うものであり、子どもの人権を意識し、日々実践している。	●工夫した授業も大切ですが、日常の先生方のちよっとした一言がもって大切であると思う。世代による道徳観の違いもあるし、地域も含めて話し合える機会を持つことも必要である。●一般的な学力だけでなく「道徳」の授業は大切であり、又難しいと思う。ただ児童が今後成長していくには、根拠に必ず必要なものであり、ぜひ家庭を巻き込んで進めていってほしい。○道徳の授業以外の時間でも道徳の考え方を意識する授業をされている。	今年度、道徳の参観を実施したことは良かった。保護者に学校で行っている道徳学習を参観していただいたことで、家庭で子どもたちと話せる話題になったと感じている。今後も道徳の参観の実施を行ってきたい。一方で、道徳の学習がその時間だけで終わってしまうことも少なくない。道徳の時間で学習した道徳的価値を、一年を通して子どもたちと話し合っていく必要がある。また、道徳の授業をする際、授業の進め方について困ることもあり、研修などを開催し、道徳を学べる機会を作る必要がある。	   
	5	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	B					
	6	保護者等への道徳科の授業公開	B					
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	B	A	○体育の授業だけでなく、休み時間にも体を動かしたくなる企画を委員会を活用して行っていて、休み時間に外で遊ぶ児童が多いのではないと思う。○子どもたちが自分たちから動ききたくなるような学習計画を考え、授業を行った。グループで作戦を考えて、それを実践していくときの子どもたちの生き生きとした姿がた〜さん見られた。●一緒に体を動かす機会が少なく、児童と体を動かす楽しさなどが共有できなかった。○体育科の学習や宿題、休み時間など体を使って心地よさを実感できる活動ができたと思う。○子どもたちがやってみたいと思えるような運動に取り組めるように心がけた。○実際にチャレンジしてみて、うまくいかなかったことや改善したい点を交流し、新たな場づくりやルールづくりを行うことができた。○学級活動等で、健康の大切さを伝えたり運動することの大切さについて考えたりする時間を持っている。また、休み時間には、子どもと共に長縄や短縄を使って運動をしたり、子どもと共に運動場に出て遊んだりしている。	●放課後外で遊ぶことが非常に少なくなり、体力低下が見られる現代の児童には、走る、投げる、跳ぶ、泳ぐ等、単調であっても根気よく体力をつける必要があると思う。●「体力づくり」をすすめるには、基本的なハードが必要だと思う。幸いに、長等学区には陸上競技場、野球場、競技用プール、テニスコート等と多くの施設が整っている。ぜひ、これらを使用し、児童の意識向上につなげていただきたい。例えば、50mのタイムを計るときに皇子山陸上競技場を借りてやれば、新たな感動と意識が芽生え、その後の考え方の変化につながると思う。○体育の授業だけでなく日頃の生活から体を動かすことの大切さを教えていただいている。	委員会活動で「ドッジボール大会」「ケイドロ大会」とイベント形式で遊びを紹介することで、その後の休み時間にドッジボールやおにごっこをする児童が増えた。イベントに合わせて、子どもが休み時間に使える場を整えていく。「ジャンピングボード」「鉄棒カード(タブレット動画)」「逆上がりベルト」のような置いておくだけで子どもたちがやりたくなるような場を整えることで、運動しやすい環境にしていける。また、1学期は体力テストに向けた体力向上の取り組みや学級経営につながる体育開きを行い、若手教員の体育への関心を高めるようにする。	 
	8	体力づくりを推進する運動実践	B					
	9	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	B					
指導改善 (組織的・計画的)	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	B	A	●県社研にむけた取り組みや研修がしっかりとされている一方、そのことにより教員の退勤時間が遅くなっていたり、日常の業務が回っていない現状があるように思う。○授業研究やOJT研修などを通して組織的に指導力の向上に取り組むことができていいると思う。○校内研究やOJT研修などで、授業を見学したり、事後研究をしたりすることで、授業力の向上につなげることができた。○定時退勤日には、いつも定時で出ることを心掛けた。○学力向上を目指して、授業内容の改善や、指導計画をしっかりと組むことで、子どもが見通しを持ち、学習に取り組めるよう心がけた。○学年で授業準備をまとめていたり、見通しをもって準備したりすることで働き方改革と教育活動の質の改善に努めていると思う。○研修やOJT、社会科の研究を通して、どのように授業を考えて、指導していくかを学校全体で学んでいると思う。○学年の先生方と協力し、授業の板書や教材(すべての授業で先生方が…)を学年で共有し、自分なりにブラッシュアップした授業にすることができた。○働き方改革については、できる限り自分の能力があがる時間に仕事に取り組むことができるように心がけた。○日々、子どもたちが主体的に深い学びをできるように、授業内容を精選したり、指導法を工夫したり、他校の先生と交流を深めたりしている。また、教師としての見識を深め、その生活や考えの礎となるような本を読むように心掛けている。●「魅力ある発問(学習課題)→めあて(学習問題)→学習活動→まとめ→振り返り」といったボリュームのある活動が、どの程度効果的に行われているかを改めて確認する必要があると感じている。●学力の高い児童にとっては有効かもしれませんが、学力の低い児童がいる場合は、この進行方法が最善かどうか疑問に思うこともある。	○工夫された授業、指導体制が学力の高さに表れている。全国学力・学習状況調査での好成績は素晴らしい。それぞれの学級で、先生方が丁寧に細かく指導され、児童達もそれに対してまじめに取り組んでいる成果だと思う。又、当然各家庭の取り組みの結果だと思う。●少し弱い部分もあると言われる点の改善をお願いしたい。○先生方の働き方におきましては、ぜひ無理のない様改革をして、さらに伸ばしてあげてほしい。○先生同士の連携を大切に仕事をされている様子がうかがえる。	昨年度と比較して、自己評価においては、各項目0.1〜0.3p上昇した。(学校関係者評価は-0.1p)教職員全体で、生活科や社会科を窓口の研究を進めることができたと感じている。来年度の近小社研滋賀大会に向けて、研推を中心に、授業づくりのしかた(教材研究、板書、発問など)を共通理解していきたい。一方で、指導改善に関わり、「今日の問題」に対する「まとめ」、「めあて」に対する「振り返り」については、毎時間の授業のなかですべてを完結することが難しい部分がある。その点については、校内研究の全体会において、来年度に向けた方向性を示していきたいと考えている。情報機器の活用については、校内発行の通信を通じて、さらに良い実践を紹介したり、情報機器の効果的な活用方法を広げていきたい。また、生成AIに関しては、情報モラルを踏まえた上で、どのように活用すべきなのかを検討する必要がある。	 
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	B					
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	B					
育ちと学びを支える連 携								
① 家庭・地域との 連携・協働	13	子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	B	A	○普段から保護者に声かけをすることで、相談しやすい体制づくりに努めた。○本校は、前向きに支えてくださる地域の方がたくさんおられる。地域に協力していただきながら、学校教育を進められている。○(4・6年の防災教育等)町探検を積極的に実施し、保護者や地域とのつながりをもつ機会をたくさん作ることができた。子どもたちも意欲的に取り組み、いろいろな人とのつながりをもつことができた。○社会科の学習を進める中で、地域の方をゲストティーチャーとして呼び、講話していただくことで、子どもたちの学習意欲の向上や探求心を高めていく手立てとして活用させていたいただいた。保護者とは、必要に応じて連絡を取り合い、子どもたちの成長のために情報を共有することができた。○社会科の授業において、ゲストティーチャーとして地域の方々に来校していただき、専門分野について話をさせていただくことができた。○日々、連絡帳を通じて、保護者の方と連携できるように配慮する共に、子どもたちの学校での様子を伝えたり家庭での様子を知らたりすることでより適切な指導について考えている。	●家庭・地域との連携においては、自治会加入率の低下が大きな課題となっている。小学生の居る世帯では特に低く、学校よりも地域の取組に工夫が必要である。○本校は地域と連携を大切に防災教育に取り組まれている。○登下校の見守りや寺子屋をはじめ地域との交流が活発になされていると思う。創立150周年をすぎ、歴史や文化が深い地区の学校だけに、交流を通じて様々なことを知ってほしいと思う。○地域に積極的に関わっていく姿勢にありがたいと感じている。	今年度も、多くの地域の方の協力により授業や行事に参加していただいた。地域の人材の活用を学年ごとに、どのような方にどのような内容でお世話になったのか、分かるような申し送りが必要である。	   
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	A					
	15	防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	B					
② 保幼小中の 連 携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	B	A	○県社研及び近社研を踏まえ、長等幼稚園と合同での研究発表協議会は令和5年度までとしたが、1・2年生の生活科において、授業を参観いただくことはできた。○中学校の先生が定期的に小学校を訪問くださり、毎回各学年の児童について情報交換することができた。○皇子山中学校区の教職員の研修において、主に小学校・中学校の先生方と交流したことで、他校での図書に関する取り組みや考えを知り、自校に活かす機会を持った。さらに、市立図書館の方に講師を依頼し、来校いただくことで、すぐ実践できる読み聞かせの技法などを学ぶことができた。○近社研の授業公開に幼稚園の先生が来てくださってお話を聞いたのがよかった。○教師が同じねらいをもって、1年生と園児の交流ができた。●今年度は幼稚園の先生方と共同研究で進めていくテーマではなかったため、自然と去年よりは機会が減った。○OSK会議に出席し、地域の小中学校を繋ぐ活動やその他の議論が活発になるように取り組んだ。●他校種と関わる機会がなく、積極的に関わることもできなかった。●夏休みの研修や皇教研でか、校種間の交流がでいかなかったように感じている。○中学校でのSNS授業に出向いたり、大津商業高校生の授業をうけたりと、異校種と関わる機会も多かった。○校内研究を通して、保幼小中の連携を意識するようにしている。	○保幼小中連携は他の地域より充実していると思う。校種間の交流・授業公開・研修等をどのようにされているかは把握していないが、参加する会議や行事において、保幼小中までの交流がかなりされている(意識をされている)様に感じる。身近に次年度小学校入学の方が居るが、「長等小学校」に入学することを大変楽しみにし、期待をされている。(校区外から長等小学校へ入学される方)○2学期の学級懇談会がとても楽しく周りでも好評だった。先生からのお話だけでなく、保護者が机を向かい並べてお互いの顔と名前を確認しながら、それぞれの話を聞くことができたのが良かった。●個人懇談が3学期にあると嬉しいです。○長等幼稚園との連携に特に力を入れておられる。	次年度も、幼稚園との合同授業研究会を行わないが、生活科の授業づくりにおいては、園の先生との連携を図っていくようにする。1年生が年長児を迎えて授業体験を行うことや、小学校から保幼に出前授業を行うことも考えていく。55交流やOSK会議の様子を職員会議などで報告、参加協力などを行っていく。小中連携は中学校がリードしていただいているが、今年度はうまくいってなかったことも多々あり、4小学校の連携や中学校との児童の引継ぎ等、教頭間、教務主任間、生徒指導担当が集まっての話し合いの場を持っていきたい。	
	17	校種間の授業公開や合同研修会	B					
	18	保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	B					
組織的体制の充 実								
① 生徒指導体制の充 実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	A	A	○打合せ後に、生徒指導に関する報告の時間を設定することにより、全教職員で情報共有を図ることができた。○週に1度、情報共有会議を行い、起きている事業の対応や予防指導について話し合っている。不登校傾向の児童については、現在の様子や学校の関わり、今後の対応についても全職員で共有している。○子どもの様子が不安定な学年は、教務が中心となり、学習や休み時間の様子を先生に見ていく体制を整え、諸課題の早期発見に努めている。○いじめや問題行動、虐待等が発覚したときは、市教委、警察、児相などとも連携して指導にあたっている。○普段から学年の先生が相談、報告しやすい体制づくりに努めた。○生徒指導・教育相談が連携して、さまざまな事案に当たることができた。○報連相を大切にしている。できるだけ早く組織で対応している。○学校全体で情報共有をして、組織として対応できているし、家庭とも密に連絡を取り合っており連携できていると思う。○学年で情報を共有し、生徒指導主任や教育相談担当の先生方と連携を密に取り対応することができた。○いじめの防止については、普段の学校生活中で、粘り強く指導することができた。●ただ、教師の目が行き届かない部分が多い(SNSなど)ので、それについても、折を見て指導を重ねていきたい。○部会を通して各学年の生徒指導についての様子を交流すると共に、学年会を通して学校の様子を伝えると共に、学級間の様子についても話し合う時間を持つことで、早期の対応と、より適切な指導について考えられるようにしている。○ICTを活用したコミュニケーション能力の育成において、ICT支援室の発するGIGA通信が効果的だったと感じている。	○地域の人間が見るのはほんの一部であるが、目立った問題行動等見られない。中学生も含め、非常に落ち着いた状態に感じる。生徒指導の成果が表れていると思う。○いじめの発生状況も随時把握しておられ、対応されていることを聞いている。●早期に芽を摘み的確な指導をお願いしたい。●あらゆる面において家庭・地域との連携を保てる様、発信していただければ周りも対応できる。○いじめの早期把握に努めていただいている。	事案が起こらないための未然防止と事案に対する組織対応が大切である。普段の子どもの様子にアンテナを張り、子どもの行動や発言に違和感を感じたら、複数の教員で見守ることができた。また、毎週金曜日の打ち合せで、全職員で共通理解することができた。事案が発生したときの対応については、ケース会議やいじめ対策委員会等で情報を整理し、学校の方針を定めながら、体制を整え、チーム学校としての組織対応に努めることが重要であり、子どもの安心と保護者の信頼構築につながる。性的事案の指導は、各学年の発達段階と事案の状況を考え、低・中・高に合わせた内容を指導することができた。次年度も、未然防止と組織対応を継続して徹底していける。	  
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	A					
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	B					
② 特別支援教育の充 実	22	個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	A	A	○特別支援教育に関しては、関係機関との連携、専門家からの指導助言、校内ケース会議の実施など、組織的な体制が整い、効果的な支援が充実してきた。○定期的な部会が開かれることにより、次年度に向けた支援、連絡、引継ぎについてリストアップしていくことができた。○報連相を大切にしている。できるだけ早く組織で対応している。○個別の指導計画がある児童については、保護者の方々と相談をしながら指導計画を立てることができた。次学年につながるように確実な連携が必要。●支援が必要な子、支援計画を立てるべきか迷う児童の観察を担任、学年団以外に見取ってもらえる体制が必要。今後、前向きに支援に向き合えるような助言がいただけたとありがたい。●学年のはじめに懇談をしたあと、次は7月、その次は年度末と3期間の設けかた的に、短いところと長いところがある。特に、後期の面談が最後のみでは、微妙なものではないだろうか感じる。○クラスの児童一人ひとりの理解に努めると共に、その児童のニーズと必要な支援について日々考えられるように意識している。関係機関との連携については、必要に応じて迅速に対応できるように心がけている。	○授業参観にて、しっかり取り組みされていると思っている。○児童の受け入れ対応に、しっかりと力を入れていただいている。	児童の様子や人間関係、学習状況などを引き継ぐだけでなく、個別の指導計画を有効に活用し、前年度までに行ってきた支援について確実に引き継いでいくことが大切である。特に効果的な支援について、年度が変わっても途切れることなく続けていけるような体制を組織的に構築していく必要がある。毎日の学年ミーティング、部会や就学指導委員会、特別支援コーディネーターと担任とのミーティングなどで児童のアセスメントを丁寧にを行い、そこから得た情報を一覧にまとめ、児童を統括的に支援していくようにする。特別支援、教育相談の年間計画について、年度当初にしっかりと共通理解を図り、職員全体が見通しをもって取り組めるようにしていきけるようにする。	  
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	B					
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	B					